

会長挨拶

鳩 貝 太 郎

第23回全国学校飼育動物研究大会にご参加をいただきありがとうございます。

昨年新型コロナウイルス拡大のため、全国学校飼育動物研究大会を中止せざるを得ませんでした。その後も新型コロナウイルスの拡大はおさまらず、大変に厳しい状況になっております。そこで今年度は、オンラインでの研究大会開催を決断し、その準備を進めてまいりました。私どもにとっては初めてのオンライン開催であり、分からないことばかりでそれらの課題解決に苦労しましたが、本日無事に開催することができました。本日の研究大会では不手際などがあり、ご迷惑をおかけすることがあるかと思いますが、ご容赦いただきたいと思います。

さて、現在の我が国における新型コロナウイルス感染症は、家庭内感染の割合が高くなり、年少者の感染も拡大するという厳しい状況になっております。各学校では子どもたちの感染を防止するために様々な対策をとり、全教職員が精一杯努力されていることと思います。

各学校は、そのように毎日が大変厳しい状況にあり「学校は子どもたちへの新型コロナ対策の対応で精一杯である。飼育動物たちのことを考える余裕などないよ!」というような声が聞こえてきそうです。

今回の研究大会のメインテーマは「飼って良かったと実感する動物飼育」としました。学校では先生方も子どもたちも新型コロナ対応でいろいろな苦労があるけれど、かわいらしい動物たちの世話をしながら一緒に過ごせて本当に良かったと皆が言えるような飼育を先生方や子供たち、保護者の皆さんなどと一緒にやって目指したいものです。

私はこのテーマについて考える時に、子どもたちの視点だけではなく、大人の視点からも考えることが必要ではないかと考えています。

子どもたちは、動物飼育を通して、優しさや思いやりの心が育まれ、動物のことや命の大切さを体験的に学び、成長できます。このことについては本日ご参加の皆さんは誰もが認めることだと思います。しかし、これからの学校はデジタル化がますます進行していきます。その結果、映像などを通して何でもすぐわかった気になれるからこそ、実際の動物飼育を通して動物の成長と一緒にいて嬉しいこと、悲しいことなどを実感し考えることが求められているのではないのでしょうか。

現実には、先生方の忙しさや働き方改革の推進などの大人の都合、大人の論理で安易に学校での動物飼育を止めてしまうことはいかなるものなのでしょうか。これからの学校教育では、子どもたちに課題解決の力を育成することが求められていますが、その問題解決の力は学校や教育委員会の皆様や、学校を取り巻く地域の大人の皆様にも求められ、試されているのではないのでしょうか。

コロナ禍での多忙さや先生方の働き方改革という大人の課題を、学校での動物飼育を充実させるためにどう解決するのかという視点で知恵を出し合うことが重要な時期に来ていると思います。

「飼って良かったと実感できる動物飼育」は、子どもたちのためにも、大人たちのためにも極めて大切なテーマなのではないのでしょうか。今回の研究大会での発表や講演の内容が、皆様にとって、それらを考える一助になればと願っております。

最後になりますが、文部科学省、東京都教育委員会、日本獣医師会、東京都獣医師会や多くの教育研究団体の後援をいただき本研究大会が開催できますことに感謝申し上げます。

(本会会長／国立教育政策研究所名誉所員／東京都立大学客員教授)